「終末の備え」

preparing for the Last Day

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネイションズ・ジャパン聖書学院

2022年7月・8月号 NO.187

「終末の備え」

カナン・プレイズ・チャーチ牧師　長沢 克己師

新型コロナウィルスによるパンデミックとロシアのウクライナ侵攻により、この２年半ほど世界中がおおわらわの日々を過ごしてきました。これが予期せぬハプニングなのか、はたまた何かの兆しの一つなのかは、十分に考慮する必要があります。この機に際して、「終末の備え」という私たちクリスチャンにとってもっともセンシティブかつチャレンジングなテーマについて考えてみたいと思います。

1. 終末の兆し

聖書は、神による救済史の啓示ですが、そこには恵みと裁きが表裏一体で語られています。メシアとして約２千年前に来られた主イエスは、贖いの御業を完成されて天に帰られましたが、その直前、これから起こる終末とその徴について明確に語られました。それは、こんにちに至る歴史を眺望して見ると、ずばりドキュメンタリータッチの驚くべき預言だったのです。終末預言は、旧新約聖書を通じてたくさん書かれていますが、ここでは主イエスが語られたマタイ２４章の終末預言を中心に見てみます。

■ 偽キリスト・偽預言者の出現

（マタイ２４章4節～5節・１１節・２３節～２４節）

これは、**「正しい神観を破壊する力」**の現れを語っています。ほかの聖書箇所では、偽教師や偽使徒についても言及されており、終末時代の宗教的・信仰的惑わしを預言しています。昔からサタンは人を惑わすために占いや魔術などを用いてきましたが、終末には激しさを増し、近現代では偽キリストが絶えず出現しており、それは終末の明確な徴の一つなのです。その特徴は、イエスの「メシア性（神性）」を認めないこと、正しい生活をしないこと、教会（神の家族）を愛さないことです。

（次ページに続く）

私たちクリスチャンは、それによって彼らの偽りを見抜くことができます。

■戦争の頻発（マタイ２４章６節）

これは、**「命の尊厳を破壊する力」**が働くことを語っています。主イエスは、終わりの時代には、民族は民族に、国は国に敵対すると言われました。戦争は、大昔から絶えず起こってきましたが、近代に入って勃発した第一次世界大戦（１９１４年～１９１８年）では１６００万人、第二次世界大戦（１９３９年～１９４５年）では８０００万人も死んだと言われます。これらは局地戦ではなく、一般国民も動員された全面戦争でした。世界最強の軍事国家が出現し、核爆弾を使った無差別な大量殺戮も行われました。第二次大戦の戦勝国は国際連合（United Nations つまり正しい訳は「連合国」）を作り、核拡散防止条約等によって核兵器を独占しようと図りました。ソ連邦の崩壊によって米ソ冷静時代は去り、アメリカが世界の警察として圧倒的優位を築きましたが、こんにち共産中国の台頭によって、米中新冷戦時代の到来が語られています。

複雑に絡み合った世界経済構造の中で、自由主義の価値観が通用しない国家の出現によって、国際秩序に大きな亀裂が起こり、非常に緊迫した状況の中で、第三次世界大戦の勃発すらまことしやかに語られている昨今です。確かに聖書預言は、終末時代末期には、北（＋南）、西、東に大きな軍事ブロックができ、やがて世界の覇権を競ってイスラエルに侵攻し、世界最終戦争が勃発することを語っています。

■飢饉や疫病の増大
（マタイ２４章７節・ルカ２１章１１節）

これは、**「生活を破壊する力」**が増大することを語っています。飢饉は自然的要因や人為的要因が絡み合って起こるものだと思いますが、ＦＡＯ（国連食糧農業機関）の統計によれば世界人口の約１／４が恒常的な飢えに苦しんでおり、開発途上国の飢餓の問題は、経済格差だけでなく、教育、保健、国土計画、政治など様々な分野に及んでいます。世界の上位１％の富裕層が世界全体の資産の３８％を所有しており、下位５０％は２％しか所有していないというショッキングな階層的格差も広がっています。経済的繁栄と表裏して経済恐慌も起こるようになりました。１９２９年のブラックマンデーと言われる世界大恐慌で世界経済は壊滅的打撃を受け、第二次世界大戦の誘因にもなりました。２００８年のリーマンショックはまだ記憶に新しく、現在進行中のコロナ禍による世界的経済不況はリーマンショックのダメージを上回ると言われています。また疫病も増大しています。人類の歴史は感染症との戦いの歴史と言われます。中世ヨーロッパを席巻したペストは７５００万人、１６世紀に蔓延した天然痘では５６００万人、２０世紀初めのスペイン風邪で４０００万人、近代のエイズで２０００万人が死んだと言われます。因みに、世界をパニックに陥れた新型コロナウィルスは５０００万人で、多分に人為的なプロパガンダの臭いがしないではありません。

■地震の脅威（マタイ２４章７節）

これは、**「自然（生態系）を破壊する力」**の脅威を語っています。地震がもたらす脅威は建物の倒壊や地割れ、山崩れだけでなく、津波も引き起こし、甚大な人的、物的損害をもたらします。アメリカ沿岸測地所の資料から過去の大地震について調べてみると、１９１４年以前の２００年間に大地震は１６数えられていますが、１９１４年以降こんにちまでの間でその３倍もの大地震が起こっているそうです。地震のみならず、地球温暖化現象として語られる事柄の中には人為がもたらしたものが多いことを考えると、それらも含めて、神が創られた自然界（生態系）を人間の手によって破壊しているという人間の罪の深さを考えさせられます。

■迫害による殉教（マタイ２４章９節）

これは、迫害によりクリスチャンに対する**「信仰を破壊する力」**の激化を語っています。

（次ページに続く）

終末に限らず、いつでも私たちには信仰に対する攻撃がありますが、終末時代は特に激しさを増していき、正しい神観や聖書の教えが異端によって惑わされることも強くなっていきます。イスラム圏や共産圏や独裁国家ではクリスチャンだけでなく、信仰者に対する迫害により殉教さえ半ば日常化していることは大きな脅威であり、終末の明らかな徴なのです。

■不法がはびこり、多くの人の愛が冷える
（マタイ２４章１２節）

これは、**「隣人愛を破壊する力」**が増大することを語っています。人と人との健全な関係を損なわせ、不信が募り、不法がはびこり、家庭や社会でお互いを尊重する隣人愛が破壊されていくのです。こんにち私たちは、凶悪犯罪が多発しているのを見ますし、秩序や公共心・道徳心というモラルが蝕まれているのを見ます。また、男女の性差を否定するような観念が広がりつつあるのを見ます。人間社会のもっとも自然かつ重要な夫婦から成る家族というコミュニティを破壊しようとする動きです。これこそ隣人愛を破壊する根本であり、社会秩序の崩壊の導火線になるでしょう。主イエスの語る終末預言についての以上の力は、悪い力、根本的には神の秩序を破壊しようとするサタン的力の現れです。これに対して、続いて語られた力は、それを食い止め、神の国の到来をこの地に招き、主イエスの再臨を早める良い力です。

■全世界への福音宣教
（マタイ２４章１４節）

これは、**「恵みの時代を完成させる力」**の推進です。宣教は単に福音を宣べ伝えて救われる魂を獲得する働きというだけでなく、この地に神の国（神の統治）をもたらす壮大な計画の遂行なのです。それは神がもっとも信頼し期待する教会に託された重要な使命です。こんにち、キリスト教国と言われる先進諸国の信仰衰退という大きな課題があるとしても、世界宣教は、何百人、何千人単位の小数の未伝民族・部族のいくつかを残すばかりに進展してきました。教会はこの戦いに勝利し、恵みの時代を完成させて、王である再臨の主イエスをお迎えしなければなりません。それでは終末時代に生きる私たち教会は、終末の前兆が顕著に進展しているただ中にあって、主イエスの再臨に備えてどのような準備をしなければならないのでしょうか。

2. 終末の備え

終末の備えが大切な理由は、主イエスが裁き主として再臨されるからです。その時、私たちはどのように備えるべきかということです。この備えは教会と各クリスチャンに必要なのです。

■終末における教会の備え

■この世において終末時代の使命を果たす

■１つ目は、**「真理の柱の断固たる表明」**です。これはいつの時代でも大切な教会の使命ですが、終末には特に重要です。なぜなら、真理が失われていくからです。

■２つ目は、**「傷ついた魂への霊的シェルター」**になることです。終末には人々の愛は冷え、魂が病む時代が深まります。人々はさまざまな困難の中で心が病み、魂が多くの傷を受けます。傷ついた魂を癒す真の避難所は教会しかありません。

■３つ目は、**「サタンとの戦いの司令塔かつ前線部隊」**になることです。終末時代は、神陣営とサタン陣営の熾烈な戦いが本格化します。教会は神の錦の御旗を掲げて、人々の最後の奪還戦を戦うために司令塔となり、前線部隊として戦わなければなりません。

■４つ目は、**「キリストの花嫁としての整え」**です。これは非常に重要です。教会はキリストの花嫁として花婿なる主イエスが教会を迎えるために来られる時、直ぐに出迎えられるよう身も心も整えられる必要があります。健

（次ページに続く）

全で命に溢れ、聖く愛に満ちた、神の栄光を現す教会としての整えです。

■５つ目は、**「イスラエルへの愛」**を惜しみなく与えることです。神はイスラエルを通して霊的祝福を全世界の民に及ぼすことを計画されました。教会はせめて物質的なものをもってでもイスラエルに愛（支援）を惜しみなく与える責任があります。

■宣教を強める

終末時代は、罪が赦され救いを受けるチャンスである恵みの時代が閉じる最終段階なので、宣教をもっと強化する必要があります。

■１つ目は、**「神の愛と裁きを語る」**ことです。神の恵みだけでなく、終末の裁きも正しく語らなければなりません。礼拝メッセージでは神の愛や恵みや赦しだけでなく、神の義や聖さや裁きも語ることが必要です。再臨される主イエスは、恵みではなく裁きを携えて来られます。そのことを冷静かつ確固として伝えることは教会の大切な使命の一つです。

■２つ目は、**「熱心に宣教する」**ことです。教会は、礼拝と宣教が両輪です。学びも交わりも大切ですが、これらは礼拝と宣教の使命から派生するものです。サークルのような教会では、信仰は育ちませんし、救霊の重荷も増しません。信仰の先人たちの熱い伝道スピリットに倣って、熱心に種を蒔き、育て、そして大いなる収獲を得る仕上げの時です。

■３つ目は、**「すべての人々に福音を届ける」**ことです。宣教学者のルイス・ブッシュ師が１９９０年代に「１０-４０の窓」を唱えて、未伝地・未伝部族への宣教が飛躍的に進展してきました。この窓には、イスラム教、ヒンズー教、仏教、共産圏など厚い壁が立っています。この地域に宣教が果敢に展開されていること自体が紛れもない終末の徴と言えます。それは主の御心に沿う働きで、主の再臨が早まるために私たち教会側が果たす責任でもあります。福音を聞いて、それを信じることの決断と責任、そして救いは聞いた人にかかっていますが、教会の基本的な宣教の使命は、ともかくあまねく福音を語ることです。

■４つ目は、**「日本宣教を強化する」**ことです。パウロは、神から異邦人宣教を委ねられましたが、心の奥には絶えず同胞イスラエル人に対する重荷がありました。日本の教会はこの国日本に一番大きい宣教の責任があります。終末時代にあってはなおさらのことです。このことは海外宣教への参画や支援を否定するものではないことは言うまでもありません。私たちの教会も開拓当初から、イスラエルへの宣教支援やアジア宣教をずっとし続けています。しかしそれでも、私たちの町、日本そして同胞の日本人への宣教は優先順位の第一であるべきです。

■終末におけるクリスチャンの備え

■生き方

ここで述べようとしていることは、私たち一人ひとりのクリスチャンの備えなので、一人ひとりの生き方に関わってきます。

■１つ目は、**「主の再臨を待ち望んで歩む」**ことです。日本でも、日本ホーリネス教団等ホーリネスの流れは、四重の福音の中で「再臨」を唱え、迫害の中でも明確な再臨待望の信仰を保持し続けてきました。私たちの目標を再臨にフォーカスすることは、私たちクリスチャンに大いなる希望を与え、再臨に備えた歩みへの強い動機付けを与えます。

■２つ目は、**「聖化に進む」**ことです。神は私たちが神の子どもとして聖別された歩みを願っておられます。そのために、主イエスが天に帰られるにあたって、信じた者にキリストの御霊である聖霊を与えると約束されました。聖化とは一言で言うと、「聖霊化」です。聖霊のもっとも中心的な働きは、信じた者をキリストに似た者（つまり小さなキリスト）に変えることです。主イエスが弟子たちに「世の光、地の塩となれ」と言われたのも聖化を通して現実化します。終末にはクリスチャンにさらに強くこのことが期待されています。

■３つ目は、**「心の目を覚ます」**ことです。

現すかを示して、言われたことであった。

（次ページに続く）

思い煩いや世俗的関心に心が奪われると、心の目が曇ってきます。こんにちの「病める時代」に飲み込まれてしまうと、私たちの霊までも病気に感染してしまいます。ユダ書１９節には「世の命のままに生きる」（新共同訳）という言葉がありますが、世の命の中で、流され、取り込まれ、どっぷり浸かって生きるならば、霊の命は余命いくばくもなくなります。いつも主が来られることを意識して、天に向けて目を見開いて歩む者でありたいと願います。

■証し・伝道

■１つ目は、**「家族を絶対救いに導く」**ことです。一番の親孝行、家族愛は家族を救いに導くことです。苦楽を共にする家族は、私たちにとって一番近い存在であり、救霊のもっとも大きな責任です。「肉（この地上）の家族から霊（永遠の天）の家族へ」を私たちのライフワークにしなければいけません。私たちの教会の伝道の柱の一つは、「カナン家族を救いの箱舟に！」というキャッチフレーズです。「首に縄を付けて」でも天国に連れて行きたいという純粋で熱烈な家族愛を持つ必要があります。

■２つ目は、**「友を絶対救いに導く」**ことです。自分の大切な親友に対する一番の隣人愛は、究極的には永遠の救いに導くことです。この地上でどんなに刎頸（ふんけい）の友（※その友の為なら、たとえ首を切られても悔いのないくらいの親しい交際）の交わりをして一生の宝と思っても、救いを伝えずに終わったらそれは結果的にはその場しのぎの愛で終わってしまいます。「肉（この地上）の絆から霊（永遠の天）の絆へ」と変革させなければいけません。

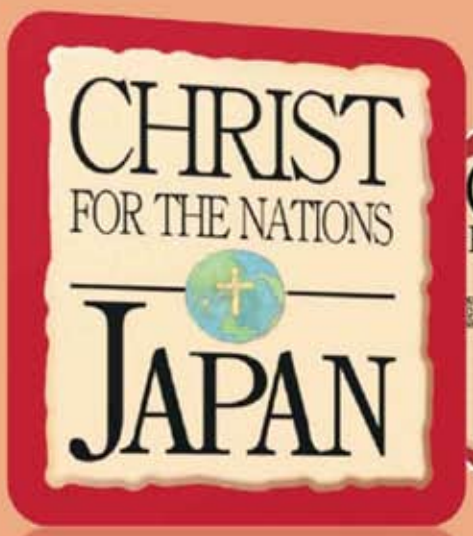
■３つ目は、**「終末の働きの召命に応える」**ことです。終末はサタンによる偽りの霊が強く働きます。正しい福音を妨害し、ねじ曲げ、奪い去ろうとします。「みことばの飢饉が襲う」というアモスの預言は患難期の深刻な世相を語っていると思います。のっぴきならない時代のただ中で、私たちは本気で終末の働きの召命に応えていきたいと切に願います。

（ｶﾅﾝ･ﾌﾟﾚｲｽﾞ・ﾁｬｰﾁ牧師　長沢 克己）

CFNJ 学院生製作、オリジナル CD！

「キリストを世界へ」（学院校歌）

視聴・学院紹介
映像が見られます！



「主の栄光を国々の中で語り告げよ。その奇しいわざを、すべての国々の民の中で。」詩篇96篇3節

01.キリストを世界へ
02.よみがえられた いのち
03.どんなものも
04.主の栄光のため生かしてください
05.子羊主イエス
06.いつまでも
07.恵みとまことなるイエス・キリスト
08.心のドアを開けて
09.心のドアを開けて ～instrumental～
10.キリストを世界へ ～instrumental～

オリジナル賛美8曲とinstrumental 2曲からなる全12曲を収録。聴いて、賛美しても、又、誰かにプレゼントしても喜ばれる待望の1枚です。このCDを通して、主の栄光が全ての国々へ語り告げられていきますように！1枚、1,000円（ご希望の方は事務局へ）

証し 「結城 勝吾」ファミリー

the Testimony of a Family

入学～学び～北海道での学院生活～出産～スタッフに！

主の御名を賛美いたします。

２０１８年３月に CFNJ 聖書学院の入学を決心し、８月に横浜から家族４人でこの学院に来て、もうすぐ４年が過ぎようとしています。この４年間に、主はたくさんの恵みを見せてくださいました。

いつも神様は、私の思いもよらないものを与えてくださる方です。まさかこの学院に入学するとは思ってもいませんでした。なぜなら献身を志し、主に祈り求めていた時、自宅から仕事をしながら通信制の神学校に通って、聖書を学ぶものだと思っていました。しかし牧師に相談したところ、牧師のすすめは、「CFNJ 聖書学院」でした。聞いたこともない。むしろ話を聞けば、北海道にある全寮制の神学校でした。理想とは全く正反対の神学校でした。あの時は、仕事を辞めて北海道に移住することは、不安材料しかありません。しかし神様は、とてもユニークな方でした。

いざ移住すると、たくさんの恵みを神様は与えてくださいました。入学当初に起こった胆振地震、そこでは地震が起きたことを不安ともせず、学生たちが共に明かりを囲い、絆を深め合っていました。この北海道の雄大な自然の中で毎年家族とキャンプを過ごすようになり、学院でのスタッフとしての働きが与えられ、以前よりも家族で過ごす時間も増えていきました。家族にとって大きかった祝福は、もう一人家族が増えたことでした。妊娠がわかったのは、２０１９年１０月、出産が２０２０年６月。まさにコロナパンデミック最中の出産でした。当時は、未知のウィルスでしたので、精神的な負担が大きい出産でした。しかし多くの方が祈ってくださって、元気な女の子を無事出産することができました。

「神よ私をあわれんでください。あなたの恵みにしたがって。私の背きをぬぐい去ってください。あなたの豊かなあわれみによって。」（詩篇５１篇１節　聖書 新改訳 2017©2017 新日本聖書刊行会）

この様々な４年間の出来事や出会いを通して、様々な価値観を持った学生がいて、人を信じ愛することはとても難しいことを知りました。相手を素直に赦すことができない、いつも周りを裁いてしまう。しかし本当は、多くの人から自分は赦され、支えられ愛されていることを、この４年間の神様の大きな恵みの中で知りました。そして何より、主が私を愛してくださっていたのだと感じることができました。そんな自分が主に対してできることは、「ただ神様を信じること」だけでした。今まで神さまから離れ、強がっていた自分がいたことを知り、これまで自分の力でやり切ってきたことに気が付かされました。その自分の弱さを知ったとき、はじめて強くなったように思います。愛することが難しい自分だからこそ、相手を知る必要があるのだと思います。また自分の偏った価値観によって、相手に対して偏見や誤解を生んでしまうのだと思います。

今はこの学院のスタッフとして学生の成長を見守りながら、神様と一つひとつの景色を一緒にゆっくりと味わいながら楽しんでいます。学院のスタッフとしてこの学院で得たもの、神様から教わったものを学生たちに祝福として流せていけたらと思います。そして多くの学生がこの学院から働き人として、主に栄光をささげる弟子となることを祈っています。

主に在って心から感謝いたします。

becoming a Disciple

学院長
鍛冶川 利文

「キリストの弟子となるとは?」

「『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった。』というのはこの方のことです。この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。」（使徒行伝４章１１節～１３節）

イエスキリストの弟子たちには２つの大きな特徴が書かれています。１つは、弟子たちはごく普通の人たち、むしろ失敗ばかりしていた者でした。そして、もう一つは、そんな弟子たちが、イエス様と共にいて変えられていった人達であったという事です。

失敗だらけの弟子達

１２弟子達は、皆（ユダを除いて）田舎育ちの無学な人たちでした。（使徒行伝４章１３節）これらの弟子達を見ると、なぜイエス様は時間や労力をかけ、あのような人たちを選ばれたのか、とても不思議に思います。１２弟子たちの中には全く正反対の性格や気質、背景を持つものが同士が集められました。それゆえ互いに競い合い、絶えず「だれが一番偉いか」と争いました。（マルコ９章３３節～３７節・マタイ１８章１節～５節・ルカ９章４６節～４８節）しかしその反面、同族意識も強く、自分たちを拒絶するものには激しい敵愾心をあらわにしました。「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」（ルカ９章５４節）イエス様からの高慢に対する注意を勘違いし、（「パリサイ人のパン種」マタイ１６章５節～１２節）互いに責任をなすりつけます。更に、無邪気にイエス様に近づこうとする子供たちを叱りつけたり、あげくの果てには、十字架に付かれるイエス様を見捨て、全員が逃げ出す始末です。本当に 問題が多い、失敗だらけの弟子達でしたが、やがてはイエス様の復活と約束の聖霊を受け、力強く福音を全世界へと宣べ伝えていくのです。そして、最後に、殆どの弟子達は壮絶な殉教を遂げ、御神の栄光を現し天に凱旋していきます。

私はこの弟子たち歩みと、その劇的な変化にとても驚かされます。これらの弟子達の姿を見る時一つの重要な事実を知らされます。それは、最初から立派な人だけが、立派な仕事をするのでなく、立派な使命が、人を偉大にしていくのだという事です。

歴史上の偉大な人物と言われている人も、初めはごく普通の人達で、必ずしもこの世では有能と思われない人たちでした。ナポレオンは１３人兄弟の中で、一番出来が悪いと言われ、あまりにも酷いので、「脳腫瘍」ではないかと疑われたそうです。あのニュートンも、いつも成績は後ろから２番目だったそうです。アメリカの偉大な大統領リンカーンも、弁護士の試験を８度も失敗し、そのうえ恋にやぶれ、半年間も入院してしまいます。又、あの２０世紀最高の物理学者アインシュタイン博士も、成績が悪く数をまともに数えられなかったといわれました。あるときアインシュタインは、乗っていたバスから運賃を払って降りようとした時、運転手からお金が足りないと告げられました。アインシュタインは、「そんな、馬鹿な！」と怒り、「ちゃんと数えるように！」言い返しました。そして、運転手と共にお金を数えたなら、確かに足りなかったのです。その時に運転手はこう言ったそうです。「数も数えれない人には、困ったもんだ！」

弟子達は、ごく普通の人でした。しかし、やがてキリストにあって、世界の使徒として宣教の礎を築いていくのです。大切な事は、私が今まで何をしてきたかではなく、これからの人生に、何を目指して生きていくのかという事です！

まじかで見てきた弟子たち

次にキリストの弟子の特徴は何でしょうか？それはイエス様と一緒にいた人たちであるということです。イエス様の弟子達に対する願いは、先ず滅私奉公のような忠実さや、どんな困難にも負けない強靭な忍耐力を持つようになることよりも、そのままの弟子たちを

がどのような死に方をして、神の栄光を

（次ページに続く）

ご自身の近くに引き寄せることでした。「百聞は一見に如かず。」と言います。直に見て、知り、体験することほど確かなものはありません。イエス様は意図的にその事を行いました。その結果、弟子たちはイエス様の傍観者から目撃者、そして最後には証言者と変えられていくのです。弟子のヨハネがこう言いました。

「初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現された永遠のいのちです。」（１ヨハネ１章１節～２節）

ヨハネは最もイエス様の近くにいた人でした。この１ヨハネの１章の１節は、そのヨハネの実感です。聞いていた人と出会い、側に近づいて見て、じっと見つめ、そして、それだけでは我慢できず、手で触れてみる。イエス様の御業を、耳と目と手で触れるという、五感全てを使った感覚で実感するのです。ヨハネは弟子となって、イエス様が行った数々の驚くべき奇跡の御業をまじかで目撃します。ユダヤ人達との激しい対決を見ます。（ヨハネ５章１８節）又、姦淫の現場で捕らえられた婦人への言葉を聞きます。（ヨハネ８章４節）盲人の目の癒やしの奇跡を目撃します。（ヨハネ９章７節）又、ラザロの甦りの現場で、泣く者とともに泣かれるイエス様の涙を見るのです。（ヨハネ１１章３５節）そして、天の父への祈りの言葉を聞き、（ヨハネ１７章）最後に十字架に付かれた苦みの姿と、父なる神への最後の言葉を聞くのです。（ヨハネ１９章３０節）これらすべては愛の業でした。

全てをまじかで見てきた弟子たちの心には大きな変化が見られます。先ず、それまで互いの競争や比較ばかり気になっていたものが、父と子、神と人という愛の関係に目を向けるようになっていきます。更に、「この方こそイスラエルを贖って下さるお方だ」（ルカ２４章２１節）と思っていた弟子たちは、復活と御霊の注ぎを受けて、この方は、「イスラエルだけではなく、全人類を贖って下さる御方である」ということが分ってくるのです。（ヨハネ３章１６節）以前は、短気で「雷の子」（マルコ３章１７節）と呼ばれれていたヨハネは、やがて互いに愛し合うようにと語る、「愛の使徒」へと変えられていきます。結局、弟子たちは、初めはイエス様の奇跡の御業に驚きますが、徐々に、その驚きは、イエス様の恵みと愛の深さに変わっていくのです。ここに弟子たちの中に起こった劇的な変化があります。

キリストの弟子になるとは？

ヨハネ２１章でご復活されたイエス様が弟子達の前にお姿をあらわされたときに、ペテロは３度に渡って主を拒み、裏切ってしまった事への後悔の思いに苦しみます。その為にイエス様はペテロに近づき、寄り添って一緒に歩きながら優しく語りかけられます。「私を愛するか」と３度問いかけ、「私の羊を飼いなさい」（ヨハネ２１章１６節～１７節）と命じます。これはペテロに自分の弱さを乗り越えて、弟子としての新たな使命を与えるものでした。しかし、この言葉の後、イエス様はペテロの身に起こる晩年の過酷な運命について語ります。

「まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」（ヨハネ２１章１８節）

これは、ペテロの殉教の様子です。この言葉にペテロはイエス様とともに歩んでいた歩みを止めて、思わず後ろを振り返ります。そして日頃、ライバル関係にあったヨハネを見て、イエス様に尋ねます。「あの人はどうですか？」（ヨハネ２１章２１節）これは、ペテロの本音の言葉でした。弟子たちはこれまで様々なことで競い合い、比較しあって歩んできました。これはペテロの間違った見方でした。ペテロは無意識にヨハネとの比較の中で自分を見ていました。そして、その自分に対して良い評価をイエス様に求めていたのです。それはペテロの心の中に劣等感があったからでした。しかし、イエス様が言われたことは、あの人がどうか？この人はどうか？という事ではなく、「あなたはどうか？」「あなたは従うか？」という事です。

キリストの弟子になることは、他者との比較の中で測ることはできません。同じ主に従う人生でも、全く別々の人生を歩むのです。でもその目的は１つです。それは「神の栄光を現す」為です！（ヨハネ２１章１９節）イエス様にお従いする人生ほど、素晴らしい人生はありません！何があろうと、この御方だけに従い歩んでいきましょう！

「『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった。』というのはこの方のことです。この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」（使徒行伝４章１１節～１２節）

短歌

学院７期、聴講生の笹川妙子姉妹作品

「アガペー」

窮極の 贖罪なりきアガペーとふ 十字架に秘むる 命の原理
真理とふ 命の言を楯とする 力に勝る何物も無し
恩寵に 日び生かさるる一人居の 椅子は尽きざる明日への讃歌
待ち望む者は 新たな力得ると 珠玉の言葉イザヤに学ぶ
受難前 祈るキリストゲッセマネ 弟子三人は睡魔に勝てず
啓示受け 多難踏み越え成し遂ぐるモーセの奇蹟 出エジプト記
悪臣の 企て阻止し命賭け 民を救ひぬ エステル王妃
従順の 極みに生きて信仰の 父と呼ばれし 勇士アブラハム
海中に 割り道をつけ民族を 脱出させたモーセの奇跡
迫害を 物ともせずに命賭け 世界に伝播 パウロの偉業

笹川 妙子
（たえこ）

CFNJ聖書学院７期目の聴講生として在籍。長年に渡り学院での学びとともにドラマクラスを受講し活躍されました。７年前にご主人を天に送り出され、現在は留学生のお世話や聖書朗読の指導や短歌の道で活躍されています。

ICF教会員。「北海道歌人会」「新懇」「はるにれ」「樹幸会」など４カ所の歌人会に所属。

無料体験入学
実施中！
平常授業のある３日間（3泊4日）
※詳しくは事務局まで。

2022年度 2学期 授業カリキュラムスケジュール

（2022年9月5日（月）～12月2日（金）迄）

●ゲストスピーカーの講義は、どなたでも聴講できます。聴講は無料です。（席上献金あり。一部授業は有料）現在、コロナ対策により、ご来場の方はマスクの着用をお願いいたします。又、各コースの授業も聴講可能です。（有料）詳しくは学院事務局迄お問い合わせください。

有賀喜一師

学院顧問

9月5日～9日
1・2時間目
（5日の1時間目は入学式）

1・2年コース

（敬称略）

	月	火	水	木	金
1 AM 8:45～9:40	聖書の地理 金聖圭	クリスチャンホームの基礎 岡田好弘	組織神学1 鍛冶川利文	新約聖書概論2 結城勝吾	組織神学2 松原望
2 AM 10:00～10:55					
3 AM 11:05～12:00	説教学1 鍛冶川利文	ローマ書 長沢克己	詩篇2 田中博		創世記 ジェリー・ジャンセン

アルプスコース（必修科目）

1 AM 8:45～9:40	クリスチャンリーダーシップ 長沢克己	牧会カウンセリング2 小栗昭夫	祈り 田中博	ヨブ記Ⅱ 石田吉男	五役者の学び 岡田好弘
2 AM 10:00～10:55					
3 AM 11:05～12:00	主の祭り 金聖圭	伝道のマスタープラン 鍛冶川利文	主の祭り 金聖圭	聖書釈義2 松原望	

選択科目

午後 PM13:00～15:00	タンバリンクラス 上級2B 伊藤雄基	タンバリンクラス 中級 伊藤雄基	ヘブル語クラス 金聖圭（一年コース）	実習（必修）	ドラマ演劇クラス 鍛冶川紀子
	ドラムクラス 仲宗根昇平	タンバリンクラス 上級2A 鍛冶川紀子	フラッククラス 張偉文		

新年度、入学式

■2022年4月11日（月）、ゲストに「伊藤 仁師」をお迎えし、新年度の入学式が持たれました。この日、1・2年コース2名とアルプスコース3名、計5名の新入生を迎えました！ハレルヤ！これから始まる学院生活が守られるように。又、必要の全てが満たされるようお祈りください。

北坂 信頼（のぶより）

■ハレルヤ。入学まで多くの選択肢と迷いがありましたが、神様の導きと皆さんの助けでここまで来ることができ、感謝です。自身が教会で過ごす中で成長できた部分と、もう一段成長しきれない部分、教会で過ごしたからこそ気づかされた変化が必要な部分や、神様の愛や癒しを必要とする部分に、変化が起こることを期待しています。召しは感じる、けれども実態との差を感じる部分に、神様からの働きかけを期待しています。お祈りに覚えていただければ感謝です。

本山 聖（さとる）

■CFNJ 聖書学院に導かれた事、心から主に感謝します。これからもこの学院を通して、イエス様の愛をもっともっと体験していきたいです。ハレルヤ！

島勝 愛

■進級にあたって、色々自分自身の不安もありましたが、わたしが神様に日々近づきたいという飢え渇きは一生変わらなく、その目的のために、アルプスへいくという決断ができたことを感謝します。始まって数日が経ちますが、本当に良かったと感じています。自分の目に思うようにいかなくても、この一年もただ主の御手の中に抱かれてることを信頼し、神様とともに日々歩んでいきたいです！

伊藤 雄基

■僕はミャンマーから CFNJ に入学するために日本に戻ってきましたが、1週間遅かったらミャンマーがロックダウンしてしまっていて、入学できなかったかもしれません。しかし、「時にかなって美しい」神様のタイミングに入学させてくださり、二年間の学びの時を与えて下さり、今度は ALPS で、学びをできていることは神様の恵みでしかなく、とても感謝です。今年僕は２０歳になるので、神様とともに新たな一歩を見つけていく年にしたいです。

大木 隆弘

■ハレルヤ！愛とお祈りを心から感謝します。この２年間は主の大きな愛と赦しまた恵みに満ちた時でした。いよいよ進学ですが、みことばが与えられました。「信じる者になりなさい。…見ないで信じる人たちは幸いです。」ヨハネ２０章２７節・２９節「主は約束したことを成就されます。」第Ⅱ列王記２０章９節　この特別な恵みと訓練の時を感謝し、神の子として主の愛に憩い、主の心をますます知り、体験したい！と願います。主に期待します。

アメリカ・ダラス市のクライスト・フォー・ザ・ネイションズとの提携姉妹校

ホームページが
新しくなりました！ cfnj.com

随時願書受付中！

新入生募集中

2022年9月・2023年1月・4月入学。各学期からの入学可。

- 臨在溢れる賛美礼拝
- 御霊に満ちた講師陣
- 実践的なカリキュラム
- 国内外のアウトリーチ
- 独身寮・家族寮完備
- 多彩な選択課目

●ドラマ・演劇クラス
●タンバリンクラス
●ワーシップドラムクラス
●英語クラス
●ヘブル語クラス
●フラッグクラス

読者の皆様へのお願い！

いつも、CFNJのニュースレターをご覧いただきありがとうございます。皆様にお願いがあります。毎回、住所変更などで多数のニュースレターが返送されてきます。ご住所が変わった場合、速やかにご連絡いただくか、ニュースレターの受け取りを辞退されたい方がいらっしゃるなら、お電話かメールでお申し出くださいますようお願いいたします。皆様の上に祝福をお祈りしております。

学院の必要と祈りの課題！

ハレルヤ！いつも学院を覚えてお祈りくださり、尊い献金をもって支えてくださる皆様、本当にありがとうございます！皆様のご支援に支えられて、学院に与えられた使命を果たすべく、スタッフ一同心を合わせて祈りつつ日々の業務に励んでおります。その中で今、様々な必要を覚えておりますので、下記の祈りの課題を共にお祈りくださり、導かれた方はご支援のほど、よろしくお願いいたします。

1. 新入生が与えられるように。
2. 学院施設の修理、及び、除雪の為の重機（ホイルローダー）が与えられますように。
3. 学院スタッフの健康と学生の学び、生活面、経済の必要の為。

CHRIST FOR THE NATIONS JAPAN
宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネイションズ日本校
CFNJ聖書学院
〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343
●HP:www.cfnj.com 郵便振替:02780-4-4688
●e-mail:office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文